令和7年度 福生市立福生第二小学校 学校だより https://fussa-2e.hs.fussa.school

令和8年 1月 8日
1月号 No.484
発行責任者
校長 西村 学徳
所在地 福生市熊川 623

若者の姿から学んだこと、大人たちができること

校 長　西 村 学 徳

八王子から見えた初日の出

明けましておめでとうございます。清々しい初春の光の中、令和八年が幕を開けました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

今年は「午年」です。古来より馬は、その力強く大地を駆ける姿から「躍進」や「前進」の象徴とされてきました。本校の子供たちが、それぞれの個性を伸ばし、更に大きく成長ができる一年となるように教職員一同、誠心誠意取り組んでまいります。今年もどうぞよろしくお願いします。

さて、この年末、私はあるTV番組を見て、大変心を動かされました。12月上旬に大学時代の友人から「長女がTV番組に出るから、よかったら見てよ。」との連絡があり、どんな番組だろうと見てみると、あるアーティストと全国から集まった17～20歳の1000人の若者たちが「本気」というテーマのもと、一緒に楽曲を創り上げるという内容でした。番組を見て驚いたのが、友人の子が高校生の時に全身性ジストニアという難病に罹り、徐々に両手足が不自由になり、現在は車椅子で大学生活を送っていたことでした。友人と連絡を取り合う中で「娘が病気になってしまってね…。」という話は、かつて聞いたことがあったものの、そこまでの病気とはつゆ知らず。番組の中では、その子がひたむきに自分の夢に向かって大学生活を過ごす姿や、震える手で必死に「本気!!」という文字を書いている姿が映し出されていました。そして、「生きていれば、苦しいことも乗り越えなければならない壁もたくさんあるけれど、そこからどう自分を変えていくかを考え、障害だけを意識せずに、自分を認めながら生きていきたい。」と話していました。そんな強く前向きな気持ちをもつことができる境地になるまで、どれだけたくさん辛い思いをし、どれだけ悩んできたのだろうと考えると胸が締め付けられる思いがするとともに、陰ながらずっと応援していきたいと強く思いました。

二小の屋上から見えた富士山

番組では、友人の子以外にも数人の若者のエピソードが取り上げられ、それぞれ不安や悩みを抱え、もがき苦しみながらも逞しく前に進んでいこうとする姿が紹介されていました。番組の最後にはアーティストと若者たちの熱唱があり、若者たちが全身で自分を表現している姿や、魂の叫びのような歌声には、終始圧倒され、その本気の姿に感銘を受けました。

これからの予測困難な時代を生きる子供たちに、どんな状況でも逞しく自分の道を切り拓いていける力を育んでいくことは学校教育の大きな使命だと考えています。そのために子供たちが「本気になれるもの」に出会えるような機会をこれからも創っていければと思います。そして、私たち大人は、常に子供たちの伴走者として寄り添い、時に子供たちが勇気をもてるようにそっと背中を後押しする存在であり続けたいと思います。